

安心・安全なサイバー空間の利活用に向けて

多様なネット端末の“機器管理”と“危機管理”

～ 青少年向けセミナー資料から見る、日本人の意識や感覚 ～

<プロフィール>

1984年 日本IBM入社。各種コンサルティングや人材育成、プロバイダー事業、教育ソフト監修他を手がけ、2005年フリーに。同時に、ITのプロと母親との両目線で現状を分析する「ネット教育アナリスト」としての活動も開始。インターネット教育の専門家として、行政機関の委員や監査機関の理事等を歴任。教育・PTA団体からの講演依頼も多く、全国で課題や解決策をアドバイスしている。また、さまざまな教育コンテンツの執筆・指導・監修を手がける等、青少年のインターネット環境作りに幅広く寄与している。2013年2月に公開した『アレンジ版／スマホ18の約束（ミニ解説付）』は、日本の家庭環境やネット事情を考慮した内容となっており、教職関係者・保護者から好評を博している。

内閣官房・情報セキュリティセンター(NISC)
「普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ」委員
内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」委員
文部科学省「中央教育審議会」スポーツ・青少年分科会 委員
文部科学省事業「ケータイモラルキャラバン隊」実行委員会 副委員長
安心ネットづくり促進協議会「普及啓発広報委員会」副委員長
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構(EMA) 理事 ほか



2014年2月3日 ネット教育アナリスト 尾花 紀子

オフィシャルサイト <http://www.frey.jp/>

「モノのインターネット=Internet of Things」のセキュリティ

米Proofpoint社が、テレビや冷蔵庫などのスマート家電から大量の迷惑メールが送信されていることを確認したと発表

ニュース



2014/01/20

Proofpointによると、10万台以上のスマート家電がハッキングされ、75万通以上のフィッシングメールやスパムメール送信に使われた。乗っ取られたスマート家電には、家庭内ネットワークのルーター、マルチメディアセンター、インターネットテレビ、そして少なくとも1台の冷蔵庫が含まれるという。

攻撃が発生した期間は2013年12月23日から2014年1月6日で、世界中の企業および個人に対して、1日平均3回、大量の不正メールが一斉送信された。全不正メールのうち25%以上は、デスクトップやノートパソコン、モバイル端末といった従来デバイスを經由せず、スマート家電から送信されていた。<以下省略>

スマート家電はまだセキュリティが甘く、米国では既にハッキングの標的になっている。また、乗っ取られたあとは行動を把握される恐れも。「たかが家電」という感覚は危険！

青少年向け資料① 2013年、子供たちの身近で起きたこと

青少年に関するトラブルについて、みなさんは語れますか？

不適切投稿：迷惑行為や悪ふざけの写真をネット公開して炎上

有名人（または関係者）を装った人に、写真やお金を騙し取られる

LINE等コミュニケーション・アプリによるやり取りの中での仲間はずれ

青少年の間でも起きている「リベンジポルノ」によるトラブルや被害

日本人の「ITを活用した問題解決能力」調査結果はいかに？

「国際成人力調査（PIAAC）」※
という、大人としての技量を測る
国際比較調査が世界24カ国で実施
〈2013年10月8日 調査報告書公表〉



※詳細は、http://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/pdf/piaac_pamph_4.pdf

青少年向け資料②「ネットで発信する」ことが特別ではない世代

ほとんどが「内輪ウケ」狙い、気分はバラエティー番組のタレント♪

- ▶ 物心ついた頃には、既にインターネットが身近にあったデジタルネイティブ世代。
- ▶ 自由に使えるケータイが常に手の中にあり、最も手軽なメールで連絡も相談も愚痴の言い合いも、ケータイメールやSNSサイトで行う日常。
- ▶ ネットを使ったやりとりが“普段の会話”や“電話”と何ら変わらなくなっている。
- ▶ 単に、仲間に「オモシロおかしい話題」を提供しているという感覚でしかない。

炎上を招いている若者たちは、「LINE@」と「twitter」の 区別がついていないと言われていますが……

- ▶ 公開性に関する性質の違いを、知識としては知っている子が比較的多い。
- ▶ わかっているのにあえて危険を冒しているのではなく、「まずいかな？」と考える時間もなく投稿ボタンを押してしまうだけ。知識を役立てる間（瞬間）がない。スマホの登場により、写真投稿が極限まで簡単になったことも大きな理由の1つ。
- ▶ 事後の「迷惑」や「償い」に気が回らないほど衝動的。規範意識の欠落も要因。

青少年向け資料③-1「フィルタリング」と「ウイルス対策」はペアで

危険に行かないようにする「フィルタリング」 危険の侵入を防ぐ「ウイルス対策」



青少年向け資料③-2 スマホからネット利用！2種類の接続方法

携帯電話会社が基地局を通して提供する電波(上)と 公共施設や店舗などが個別に提供する無線LAN(下)



だから、本体に「フィルタリングアプリ」を導入する必要があります！

青少年向け資料④ ながらスマホの危険／窃盗事件も増加

意識が画面に集中→視界は狭まり、周囲の様子や音にも鈍感に！



「歩きスマホ」による事故が急増中、ながら操作はNG！
操作するなら邪魔にならない安全な場所に立ち止まって

ケータイよりも画面が大きく情報量の多いスマホを読んだり操作したりしながら歩いた場合の視界の範囲はせいぜい前方3～4m程度。

これは普通に歩いている場合の約1/5であり
左右方向の視界は1/10未満になってしまう。

ゲームをしている場合、イヤホンを使っている
ケースも多く、よりいっそう危険！！



背後の危険に気づきにくく、悲鳴をあげても聞こえない！
夜道での帰る連絡は抑止効果が働くこともある「通話」で

メールやライン等で、「これから帰る」と連絡をする人も多くなっている。
でも、画面に気を取られて近づく人の気配に気づかなかったり、スマホの光が暗闇の蛍のように自分の居場所を知らせてしまうことも。

身近で多様なネット端末がより身近になる時代

今後、私たちがサイバー犯罪に遭うリスクは高まりこそすれ、減少することはありません。
自ら、あるいは身近な人の「うっかり」を防ぐためにも、個々人が意識改革を心がけましょう！

危機管理  ココがポイント！ デジタル機器は常に実験中！ 注意を怠らない

- I どんな端末も、インターネットの構造上の特徴を意識しながら利用
- II そもそも情報共有がネットの特徴、プライバシー保護への過信は禁物
- III 仕事用とプライベート用は端末を分けるというアナログな安全策も有効



育てる人たちの正しい知識と認識

使い方に長けているデジタルネイティブも
日常の危機管理は意外とできていない。
新人から管理職まで、心のセキュリティを醸成する学びが必要！